

2024年3月期第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

■第3四半期の業績について

Q1. 第3四半期単独（10～12月）業績の計対比を教えてください。

A1. 第3四半期単独のEBITは377億円。計対比ではEBITは+110億円、売上収益は+約40億円、費用は▲約70億円（費用減）。売上収益は国内旅客収入で+約40億円、費用は燃油費▲約40億円（費用減）、残りは機材償却費と社外役員費の減少。

■通期業績予想について

Q2. 第4四半期は、JL516便事故による150億円の損失計上や国際線旅客数が計対比で下振れる見通しであるが、EBIT1,300億円達成に向けた手応えを教えてください。

A2. EBIT1,300億円の達成は十分可能であると考えている。国際線の旅客需要については、12月が思うように伸びなかった。特に、海外発のうち日本で乗り継ぐ通過需要を取り損ねたため、2、3月は戦略を練り直し、単価を維持して計画達成を見込んでいる。国内線は、1月の旅客需要が弱いように見えるが、これは羽田空港C滑走路閉鎖に伴う減便によるもので、影響は一時的である。

Q3. EBIT1,300億円の通期業績予想に、JL516便事故の保険金は含まれているのかを教えてください。

A3. 保険金の入金時期は現時点で不明のため、通期業績予想に保険金は含んでいない。よって、航空機全損による150億円の損失を加味しなければ、通期EBITは1,450億円と捉えていただきたい。

■国際旅客・国内旅客について

Q4. 国際線の単価は好調だが、今後単価が下がる懸念要素があれば、教えてください。

A4. 第4四半期も第3四半期と同水準の単価を維持できる見込みである。長期的に見れば緩やかに下がってくるかもしれないが、少なくとも来年度の第2四半期までは、今の高い水準を維持できると考えている。

Q5. 国際線の日本発需要の伸びが弱いですが、今後の回復の見通しを教えてください。

A5. 日本発の観光需要が弱く回復の手応えはまだない。しかし、年末年始やゴールデンウィークなどの繁忙期はビジネスクラスでも早期に埋まる傾向があり、コロナ前から海外旅行をしていた層は回復も早い。課題は、コロナ禍で海外に行く機会がなかった若年層である。70周年記念キャンペーンや機内Wi-Fi無料キャンペーンなどの施策を打ち、若年層のニーズをくみ取り、海外旅行の需要を喚起していく。

Q6. 国際線の路線計画について、北米路線は、米系キャリアの復便などにより需給バランスが緩む可能性もあると思うが、今後の北米マーケットをどう見ているのかを教えてください。

A6. 国際線は、北米線と東南アジア線が特に需要が強く収益性が高い。北米マーケットの総供給はコロナ前水準に戻ってきているが、その中でも JAL と ZIPAIR とともにシェアを高めることができている、今後も強化していく。また、欧州路線については、3月31日からドーハ線に就航する。中東エリアへの参入は初めてだが、パートナーのカタール航空も多く路線を飛ばしており、欧州への南回りの乗り継ぎ便としても収益が見込める。

Q7. 国内線の単価について、高い水準が続いているが、今後もこの水準が定着していくと考えているかを教えてください。

A7. 値上げを実施してきた普通運賃およびフレックス運賃などの単価上昇分は定着している。それ以外では個人旅客と団体旅客の構成比率の変化やレベニューマネジメントの効果などが単価上昇の要因だが、これらの効果も持続し、今後も高い単価は継続できると考えている。

■LCC について

Q8. 第3四半期単独の EBIT は 14 億の赤字だが、ZIPAIR が伸びている中で赤字の理由を教えてください。

A8. LCC は ZIPAIR、スプリング・ジャパン、ジェットスター・ジャパンで構成されている（ジェットスター・ジャパンは持分法適用会社）。ZIPAIR は順調に推移している。一方で、スプリング・ジャパンは中国発の需要回復の遅れで苦戦中である。また、ジェットスター・ジャパンは前年よりは回復しているが、コロナ前程度まで需要が戻り切っていない。このような要素が重なり、LCC 全体では第3四半期単独で赤字となった。

■来年度の業績見通しについて

Q9. 来年度の業績の見通しを教えてください。

A9. 来年度も増収・増益できると考えている。

国際線は、日本発需要の回復が見込まれることに加え、好調な業務需要を引き続き取り込むことで収益を上げていく。中国線については、現在は厳しい状況だが、来年度の後半には回復するポテンシャルがある。LCC は ZIPAIR の路線拡大もある。

国内線は、需要はすでにコロナ前と同水準に回復しているため、単価改善を着実に進めて収益を上げていく。

貨物郵便は、新規にプレーター事業が開始される。

マイル・ライフ・インフラのうち、マイルは今年度失効率の低下による収入減があっ

たが、マイル発行数は順調に伸びており、来年度は十分に伸びる余地がある。期待していただきたい。

詳細については、3月21日に発表を予定している「2021-2025年度JALグループ中期経営計画ローリングプラン2024」においてご説明したい。

以上